

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 吉田 節美
幹事 石黒 正則
会報・雑誌委員長 大 口 弘 和

No. 18 ローターリーの夢を追い続けよう FOLLOW YOUR ROTARY DREAM

1998～99年度 RI会長 ジェームスL・レイシー

きょうの例会

第784回 平成10年12月8日(火)

講演 "オユンナ児童基金について"
日本モンゴル文化協会 理事長 久野 昭治氏

先週の記録

第783回 平成10年12月1日(火) 晴

- ◆ "君が代"
- ◆ "それでこそロータリー"
- ◆ 黙 想 ～ ゆとり～
- ◆ 出席報告
- ◆ ビジター紹介
- ◆ 今月のお誕生日祝福

会員	70 (65) 名	出席	54名
出席率	83.08%		
前々回	11月17日	(修正出席率)	100%

山本(英)君(12/9)、宮尾君(12/10)、深見君(12/16)、黒須さん(12/25)

伊豫田親睦委員長よりお願い

12月に入り、年末家族会まで半月ほどとなりました。皆さまには多数ご出席のお返事を頂き有難うございました。当日は楽しんで頂けるよう、現在着々と準備を進めております。

アトラクションは、モンゴル出身のオユンナさんによる美しい歌声と、当クラブが今年結成しましたアマチュアバンドの二部構成となっており、当日のデビューに向けて、一生懸命練習しております。

又、歴代会長・幹事の方々にはX'マスソング"聖夜"の歌詞を今日お渡ししてありますが、当日、アマバンドの演奏をバックに、壇上に上がって頂き、一曲歌って頂きますので、ご協力の程お願い致します。

さて、オユンナさんはモンゴルの恵まれない子供達への援助をずっと続けてこられ、その活動が2年前に「オユンナ児童基金」として認められ、現在は、体にあざができて、生命にもかかわる難病の男の子を救うため、募金を広く募っています。詳しくは来週、日本

モンゴル協会の理事長にお越し頂き、卓話して頂きます。今日と来週、「オユンナ児童基金」の募金をお願い致しますので、宜しくお願い致します。

ニコボックス

- 浅井 誠寿君 肩の荷の降りし冬木と思ひけり
- 加藤 大豊君 アジア大会の選手団結団式に昨日出席して来ました。
- 小杉 啓彰君 水野民也さん、アナパウラがお世話になります。
- 黒野 貞夫君 祝賀会の折は大勢お越し下さり有難うございました。又、チャリティー色紙展も終わりました。
- 水野 民也君 いろいろ、有難う。
- 本山 孝君 地区大会所用で遅れました。申し訳ありませんでした。
- 鈴木 理之君 早、師走。がんばりましょう。
- 吉田 節美君 11/27は事務局に大変ご迷惑をおかけ致しました。
- 二村 聡君、萩原喜代子さん、林 哲央君、石黒 正則君、河村 政孝君、菊池 昭元君、久保田 皓君、松居 敬二君、三輪 康君、水野 賀續君、水谷 祥督君、中井 常雄君、大口 弘和君、鷺谷 龍男君、佐久間良治君、笹野 義春君、鈴木 正男君、田部井 良和君、竹内 眞三君、田中 昭二君、舎人 経昭君、和田 正敏君、吉田 玄君 オユンナ児童基金に協力しましょう。
- 黒須アイ子さん 誕生日祝い。
- 山本 英次君 X'masのバンド名が未定です。良い名前があったら提案して下さい。ヨロシク！ 誕生日祝い。
- 足立 一成君、在田 忠之君、小林 明君、三好 親君 結婚記念日祝い。

石黒幹事報告

- 1.会員の釜谷君と西尾君が一身上の都合にて退会される事になりましたのでお知らせ致します。
- 2.本日例会終了後、年次総会を開催しますので、全会員そのままお残り下さい。
- 3.ロータリーの友12月号と'98～99年度の定款・細則が来ておりますので、お帰りにお持ち下さい。

松島ロータリー財団副委員長よりお願い

先日皆様にお願ひ致しました財団寄付ですが、申し込み締め切りを今週末とさせて頂きましますので、ご協力をお願ひ致します。又、現在のロータリー相場は1ドル118円となっております。

吉田(節)会長挨拶

今週は趣をかえて風船爆弾などと云う大変物騒な話を紹介してみたいと思います。この話事態、私共の仕事と大変深い関係があり、私共の業界の一つの歴史として大いに参考にして居る事柄であります。

さて、トルストイの「戦争と平和」に1812年のナポレオン戦争の際、ロシア軍が気球をあげた事が記事に載って居りますが、日本では気球が見られたのはずっと後の事でありませう。紙で作った気球、風船が子供のおもちゃになったのは古くからでありましたが、その風船が実用になったのは江戸時代末期に欧米人が気球を上げて見せてからの様であります。

日本製の気球がはじめて上がったのは明治10年で、ツェペリン伯の飛行船が成功したのは明治41年であります。それから長い間、布にゴム引きした風船が気球等に用いられて居たが、第2次大戦末期、昭和20年2月18日の朝日新聞に次の様な記事が出てその内容がわからぬまま、日本は米本土の攻撃に入った様な印象を日本国民に与えました。その記事と云うのは

「風船爆弾アメリカ本土を脅かす」

日本製 時速500哩で襲撃

これは資料に依ると、同盟通信の記事に基いたもので、昭和19年から原因不明の火事が米本土で発生し、これが日本の気球に依るものである事が判明し、米国民に不安と動揺を与えていると云うもので、12月20日までにその死傷者が500人を突破したと云う記事であります。この爆弾の正体については戦後に発表されましたが、太平洋上のジェット気流を利用したもので、しかも使用した気球が和紙とコンニャクと云う極めて日本的な材料である点大方の関心を引いた事柄であります。

記録に依りますと、昭和17年に計画され、日本陸軍が「ふ」号兵器として19年から千葉、茨城、福島沿岸から飛ばした様で、その数は文献に依り差はありますが、製造されたのが約1万個、使用されたのが約6,000個、米国に到達したのが約285個と云われて居ります。

風船爆弾は和紙をコンニャクで何枚も貼り合わせ、それを更にコンニャクで接着して袋をつくり、中に水素ガスを充満し、高度保持装置を取り付けたもので、コンニャクで貼り合わせた和紙が水素ガスを透過しにくいことを利用したもので、戦後この風船爆弾を色々批判した人も居りましたが、前代未聞のこのアイデアと材料の選択は今もって教えられる所が非常に多くあります。最も作業にあたった当時の女子高校生女子挺身隊は、大変苦勞をして糊を煮て貼りつけの作業を行った様であります。風船爆弾の原紙は九州、四国、中国地方の女学生が作り、風船への貼り合わせは東京板

橋第2造兵廠、日本劇場、国技館などで女子挺身隊が行った様であります。

コンニャクは奈良時代、中国から渡来したもので、球径(コンニャクイモ)を乾燥してコンニャク粉をつくり、その水溶液に石灰を入れ、煮沸してかためてコンニャクをつくりますが、コンニャク粉の水溶液は古くから紙の耐水性を支える材料として耐水接着剤として用いられて居り、江戸時代の「和漢三才図会」にも「紙衣の糊となす」「コンニャク糊と云い紙を継ぐに用いてよし」等と云う記録がある様でありまして、第2次大戦当時は、そのコンニャクの品質、原紙の製造法、貼り合わせ法などは軍の規格が作られ、気球1ヶにコンニャク粉を90kg使ったと云われて居ります。当時、米軍の測定ではこの気球に450kg/m²の張力がかかっても十分なほどの強度があったそうです。

今日は私共の仕事に関係ある歴史の一コマを紹介して挨拶とさせて頂きまします。

年次地区大会報告

◆舎人青少年活動委員長



松本宏パストガバナーの基調講演のあと、パネルディスカッションが行われました。

基調講演では松本講師が小児科医院長でもある事から、出生児からの養育、母子関係を中心とした人間関係の重要性を強調されました。

最近の子供達は自己中心的で切れる子供が多くなったと思いますが特に過干渉、放任など家庭の養育方法に問題があると思われます。国際化、高齢化、情報化等20世紀から21世紀にかけて社会変化が急速に進む中、学校教育もカリキュラムの変更、週休2日制など知識修得教育から物事を考える教育、特に社会の変化に対応できる心、生きる力、学び考える力など豊かな人間性を育む事が大切です。その為には家庭のあり方、父母間・家族間の絆を強くする、地域ぐるみの子育て運動、学校教育の見直しなどが必要であり、我々ロータリアンも青少年と共に学び共に行動するようにしたいとの講演でした。

パネルディスカッションでは5名のパネラーより
・幼児期の親子関係、血の通った、心の通った体験重視の教育、教科より応用力、精神力の出来る教育(儒教的な考え方)
・中京経済界の問題として地元で進学したくなるよう

な大学の充実、単線教育から複線教育への改革（乗り換え自由な教育）、常在教育（社会全体が常に教育であり、すべての人が教育者、いわゆる生涯教育）

・家庭教育に問題あり、父親不在から母親も不在になりつつある、特に親子で食事をする時間が少ない、日本の大学は入ってしまえば勉強、研究をしない

・子供達の身体機能の低下（遊ばない）、縦社会の低下、子供社会の崩壊の立て直し。教える事にウエイトを置くのではなく育てるのにウエイトを置きたい。

・遊びの時間が少ない「インターアクトは遊びの部分に入る」がこれが非常に大切、教育制度の充実…子供がやりたい、なりたい教育、今持っているものにめぐみを感じる教育等、多くの意見をいただきました。

◆水谷 祥督君



2日目の本会議に出席させていただきました。玄関正面を入るとホストクラブ名古屋東南ロータリークラブ、コ・ホスト名古屋名南ロータリークラブ会員の方々、また東海道の宿場である鳴海に伝わる大人形の猩々（しょうじょう）に迎えられ、入場し登録受付後、本会議第1部に入り、内藤ガバナーがRI会長代理小谷隆一御夫婦をお迎えし、点鐘にて始まり、挨拶・各報告・記念事業など第1部の行事が進んでまいりました。

私は、本会議2部についての報告をさせていただきます。昼食後アトラクション1F友愛の広場にて、フラメンコ舞踊とビックバンドジャズコンサート、千種台中学校50名の生徒さん達による演奏など見て、本会議2部に入場し、青少年活動の紹介から始まり、ロータリー財団奨学生・青少年交換学生・米山奨学生・米山学友会・インターアクトクラブ・ローターアクトクラブの紹介とそれぞれの挨拶があり、交換学生の時はアナさんも紹介され、笑顔でブラジルの旗を振っていました。

ひきつづき、内藤ガバナーから前年度地区大会ホストクラブ、田原ロータリークラブに感謝状と地区大会に関するクラブ表彰など行事を行いました。

早稲田大学吉村作治教授による「エジプト文明から見た地球環境」の記念講演を聞き、エジプトの文化により土地環境は古代から近年まで自然の流れによって環境が作られていたのであるが、アスワンダムが人間の手によって建設され、人間が自然の流れを止める事になり環境を破壊している。

吉村教授の話では、地球はリサイクルによって成り立ち、リサイクルなしでは地球は滅びるとの話でした。私も環境関係の仕事に携わり、生ゴミ処理機、水に関する機器、空気の清浄器など扱っています。とくに生ゴミを水（肥料ミネラル水）に変える画期的な機械を扱っています。地球環境を少しでもよくする為に頑張りたいと思います。

国際ロータリーRIジェームス・レイシー会長の「ロータリーの夢を追い続けよう」のテーマと内藤ガバナーの「新時代に大なる光を照らそう」との御方針に従い、今回大会のスローガン「二十一世紀の懸橋」として夢・友情・愛など心と心の結びつきにおいて理解と友情を深め、意義のある大会でした。

次年度地区大会ホストクラブ・小牧ロータリークラブ紹介と挨拶、ロータリーソング「手に手つないで」、閉会のことば、点鐘によって無事に大会二日目終了したことを報告します。

◆伊藤 健文君（初めて参加して）



11月22日（日）大会二日目、名古屋国際会議場に参加させていただきました。

国際会議場は大変立派な建物で、大規模な設備ですが、多くのロータリアンで埋めつくされ、大盛況でした。

オープニングは「二十一世紀への懸橋、創造と交流の点鐘」のタイトルにふさわしく、舞台中央には大きな地球のオーナメントと、子供達の幻想的な舞踊から始まりました。国歌「君が代」の斉唱、ロータリーソング「奉仕の理想」を全員で合唱し、スタートしました。内藤ガバナーにより点鐘、物故会員への黙祷、各務大会委員長の開会のことば、来賓・特別出席者・出席クラブの紹介。伴ホストクラブ会長の歓迎のことば、内藤ガバナーの主催者挨拶と進行して、今回はRI会長代理の小谷隆一御夫妻をお迎えして、RI会長代理による現状報告を伺いました。小谷RI会長代理のお話は、ロータリアン一年生の私にも理解しやすく、①メンバーの減少 ②例会への出席率の減少 ③メークアップのあり方、等々を、各地区のロータリーの例をあげながらお話いただきました。

他に、愛知県知事・鈴木礼治様、名古屋市長・松原武久様からのお祝辞があり、午前中の会議も順調に進行して、約二時間がアツという間に過ぎてしまい、私にとって有意義な一日であった事をご報告申し上げます。

***** 米山奨学生 張君との再会 *****

会員 大口 弘 和

11月1日～3日にかけて台湾(台北)に、小林明副会長ご夫妻(写真右)と私の妻の4人で観光旅行をいたしました。1日目は中山記念堂・龍山寺などの市内観光、2日目は長康ゴルフクラブにてプレイを楽しみました。3日目は故宮博物院見学、そして圓山大飯店で飲茶の昼食その後忠烈宮を見学して帰路につきました。

2日目夕方には、1989年4月～1991年3月の2年間当クラブの米山奨学生であり、私がカウンセラーをさせていただいた張 国華君(写真左から2人目)が台中の雲林県から会いに来てくれました。張君は現在、国立雲林科技大学の副学長と教授の職にあり多忙な毎日を送っているとのことでした。また彼は1993年3月に設立された斗六市北区ロータリークラブの創立会長をつとめたロータリアンでもあります。夕食をともにした短い一時でしたが懐かしさも加わり楽しく語り合いました。千種ロータリークラブの皆さんによるしくとのことでした。



今回の旅行では瑞穂ロータリークラブの遠山堯郎さんの友人で台北延平ロータリークラブの李 武弘さんご夫妻(歯科医師・写真左)の心のもった歓迎をうけました。深く感謝致します。

◆地区大会で、米山奨学金の寄付が1,000万円達成したとして、ガバナーより表彰を受けました。



例会変更のお知らせ

名古屋中RC 12/14(州)、夫妻忘年会の為
名古屋RC 12/15(火)、忘年家族会の為、17時～

ロータリーワールドより

▶重要性を増す未来の指導者の育成

今年度を通じ子供たちを援助するというロータリーの強調事項の一端として、ロータリアンたちは、指導者の育成のために積極的な役割を担っていくことで、今後の世代の生活の形成に役立つ機会を捉え、協力したいと考えています。ロータリー指導者養成プログラム(RYLA)は、その機会を提供しています。

1971年に公式のロータリー・プログラムとなって以来、RYLAは、キャンプ、セミナーおよびワークショップを通じ何万という若者を援助し、指導能力の育成に当たってきました。オーストラリアの第9680地区においてこれまでに17回のRYLA研修に参加したRIの1998-99年度RYLA委員会委員のワーウィック・ベイトマン氏は、RYLA活動をこれまで以上に適切なプログラムと考えています。

「若い人々に対する圧力は、高まっています」とベイトマン氏は、語っています。「あらゆる処から社会基準や価値に関する難問に対処することが迫られています。今こそ、若い人々は、確固とした効果的な指導力を必要としています」

RIのRYLA委員会は、今年度、幾つかの地域会合を計画しており、地区RYLA委員長と関心のあるロータリアンたちが集い合い、アイデアを交換する機会を与えてくれることとなります。現在、活動的なRYLAプログラムをもたない地区は、RYLA行事を組織することで得られる利点について学ぶために代表を派遣することが奨励されています。

第9680地区のRYLA活動の成果に関する最近の調査では、ワークショップを終了してから3カ月以内に、84名の参加者が9,000人以上の若い人々に影響を与える多くの機会に恵まれ、指導力を発揮する地位に就いたことが判明しました。そしてベイトマン氏によりますと、その効果は引き続き発揮されています。このプログラムは、ロータリーが若い人々との絆を強め、その恩恵が更に多くの若い人々に伝わるのに役立つことになるのです。

「今日のロータリー・クラブの役員のうちどれくらい多くの人たちが、RYLA活動を経験したことで高い評価を受けたかを調べて見れば、プロジェクトに対する本当の価値や意義がわかります」と、ベイトマン氏は語っています。「しかし恐らく、最大の満足は、RYLAにより成長したどれくらい多くの人たちが、今も、今日の若い人々の指導と育成に関与しているかを自分の目で確かめることなのです」

▶RYLA活動についての強調事項

- ・RYLAプログラムにおいて、14才から19才、或いは19才から30才と云った年齢別のグループに分け、異なったニーズや成熟レベルを考慮し適切に対処できる目標を設定することを強調する。
- ・指導能力や責任ある市民としての技能の開発と共に個人的な心身の発達を含めるよう、RYLAプログラムの目標を拡大する。

◆次回例会(12月17日)

年末会員家族懇親会
名古屋観光ホテルにて 18時～